

J-STAGE 中長期ビジョン(骨子案)

本ビジョンの位置付け

- ・ J-STAGE の今後(5~7年程度)の運営方針を内外に提示・共有するもの。

キャッチ

- ・ 電子ジャーナル出版プラットフォームから研究基盤へ
- ・ 論文を軸とした研究成果の基盤

J-STAGE の基本的なスタンス

- ・ 学術コミュニケーションのあり方は変容しつつあるが(媒体の変化、プレプリントの台頭、共有する研究成果の拡大等)、論文の重要性は今後も変わらない。J-STAGE は引き続き電子ジャーナル出版プラットフォームとしての役割を担い、論文を軸とした取組を行う。
- ・ 電子ジャーナル出版プラットフォームとしての必須機能については、JST が責任を持って提供をする。それ以外の機能の開発実施主体および費用負担主体については、必ずしも JST でなく、利用機関や第三者が担う場合もあり得る。これに伴い、開発方式については、JST による J-STAGE 本体に対する開発、他サービスとの連携、第三者による開発が考えられる。
- ・ ジャーナルが外部から評価を受ける要素は、掲載する論文のレベルそのもの(研究レベル)、ジャーナルとして信頼されるために備えるべき情報の整備、国際的に広く認知されているデータベースへの登載や指標の取得・向上がある。このうち J-STAGE はジャーナルとしての情報整備、データベースへの登載および指標の取得・向上を支援対象とし、ジャーナル側の努力によってのみ向上が可能な研究レベルは対象としない。
- ・ ジャーナルの方針は利用機関自身で定める。J-STAGE は利用機関に対して方針策定に際して参考となるであろう学術コミュニケーションに関する国内外の動向を提供する。

担う役割

1. 【 Safe & Secure 】我が国の 2,000 を超える科学技術刊行物を出版・流通する電子ジャーナル出版プラットフォームとして、継続してプラットフォームを提供するとともに、J-STAGE に登載されたコンテンツが継続して閲覧できるよう努める。
2. 【 選択と集中/ Choice and Concentration 】J-STAGE に登載される科学技術刊行物はジャーナル、研究報告書・技術報告書、会議論文・要旨集、解説書・一般情報誌等と幅広く、国内外での研究成果の公開・交流の場の提供・教育等とその目的が多種多様であることから、一律的な支援を行うのではなく、各々の目的に沿った支援を行う。特に、我が国のジャーナルのプレゼンス向上に向けた支援については、選択と集中の戦略性を持ち、国際的なハイインパクトジャーナルを目指す英文誌を対象を絞り、支援内容を強化する。
3. 【 Research Workflow 】研究成果の発表・議論の場がジャーナルからプレプリントサーバーへ拡大する、研究データを研究成果として出版・流通するといった学術コミュニケーションの

変容に鑑み、論文の出版・流通に限定していた J-STAGE の役割を研究プロセスの早期側に拡大するとともに、論文に紐付く研究データも対象とし、これまでの電子ジャーナル出版プラットフォームから公的研究基盤へと変貌を遂げる。

4. 【 Open Science 】科学技術イノベーションの創出につながるオープンサイエンスの世界的な流れに適切に対応するため、J-STAGE は我が国の公的研究基盤として、J-STAGE に掲載された論文及び研究データの利活用促進に資する取組を行う。

行動計画

1. 電子ジャーナル出版プラットフォームの提供およびコンテンツへのアクセスの確保【 役割1. 】

- ・ 我が国の科学技術刊行物の出版・流通に支障が生じないよう、世界標準に準拠したプラットフォームを安定的に運用し、継続して提供する。
- ・ また、情報提供サービスの閲覧機能を継続して提供する。我が国の情報資産である論文情報が閲覧できなくなる事態が生じないよう、自然災害等により J-STAGE が情報提供サービスとしての役割を果たせなくなった場合に備え、他機関との連携の下にダークアーカイブを行う。

2. 利用機関の目的に応じた支援【 役割2. 】

- ・ J-STAGE に掲載される科学技術刊行物は、研究成果の発表、それに関連する討論の場の提供、教育など、その目的が多種多様であり、対象とするフィールドが国外・国内と差がある。このことから、各科学技術刊行物の実情に沿った支援を行うべく、その目標・方針、実現に向けた取組、抱えている課題等を把握するため、利用機関との対話の場を設ける。
- ・ 利用機関のニーズや学術コミュニケーションの動向等に基づき支援策を策定し、J-STAGE 利用機関とのパートナーリングの下に実施する。
- ・ J-STAGE に掲載される各科学技術刊行物の目標・方針等の策定・決定は、刊行する J-STAGE 利用機関が担う。J-STAGE は各利用機関に対し、学術コミュニケーションに関する国内外の動向情報を提供し、各利用機関における目標・方針等の検討・策定を支援する。
- ・ J-STAGE には多数の利用機関があり、複数機関が類似の課題を抱えている場合や、ある機関が抱える課題に関して他の機関が知見を有する場合等がありうる。このことから、J-STAGE の利用機関間での情報交換や相互連携が行われることを期待し、交流のための環境づくりを推進する。
- ・ 公的機関として投資可能な資源に限りがあることに鑑み、すべての J-STAGE 利用機関に電子ジャーナル出版プラットフォームを提供する一方、国際的なプレゼンス向上に意欲的な英文論文誌に対し付加的な支援を行う。

3. 日本の論文誌のプレゼンス向上に向けた支援【 役割2. 】

- ・ 論文誌が評価を受ける要素のうち J-STAGE が寄与しうる部分として、論文誌として信頼されるために備えるべき情報の整備、国際的に広く認知されているデータベースへの掲載や指標

の取得・向上に向けた支援等、品質向上に関する支援を強化する。

- ・ 国際発信力を強化するため、海外に向けたマーケティングについて支援を行う。
- ・ 品質向上および海外マーケティング強化に関して各論文誌が抱える課題、それに対する検討・実施内容について、利用機関間での情報交換や分野ごとの相互連携が行われることを期待し、交流のための環境づくりを推進する。

4. 公的研究基盤への変貌およびオープンサイエンスの推進【役割3. および4.】

- ・ J-STAGE 掲載誌の9割を占めるフリーアクセス誌から国際的な標準に適合するオープンアクセス誌に転換するための支援を行う。本支援には、オープンアクセスとは何かといった基本情報の発信を含む。
- ・ 日本で産出された研究成果の公開・利活用を促進するため、これまで論文に閉じていた電子ジャーナル出版プラットフォームから論文を軸とした研究基盤へと拡張する。
- ・ 量・スピードとも増加する論文の利活用を促進するため、機械可読可能な形式(XML形式など)で整備されるよう、支援ツールの提供を検討する。
- ・ 利活用推進の方策として、外部のデータマイニング基盤・サービス等との連携を検討する。
- ・ プライオリティ先取に鎬を削る論文誌への対応として、プレプリントサーバーの設置、早期公開の多段階での実施等について検討する。
- ・ (公的研究資金による)論文のエビデンスデータを保存・公開することが求められているものの、そのためのリポジトリが整備されていない状況に鑑み、J-STAGE 掲載誌が利用可能な研究データ用リポジトリの構築・提供を検討する。
- ・ 研究データの品質確保と共有促進のため、データジャーナルの刊行を支援する。その際、例えば、ジャーナルに掲載された論文に用いられた研究データを掲載するデータジャーナルを当該ジャーナルの下に発刊するなど、論文と研究データの価値を相互に高める仕組みも考える。